鹿熊さんの作品『どこかの誰かの』

冒頭の柱の建て方サンプル

ポイント１：トーク内容が長いので、実景を使って徐々に未希に近づく感じにしてみました。

ポイント２：その人物がそこにいない場合◯◯の声などと表記します。このケースはメグライオン。隣の部屋から呼ばれる時などもそう書きます。ナレーションの場合は、例えば美希のNと書きます。

◯都会の風景

 どこからかラジオ番組が聞こえてくる。

メグライオンの声「（番組宛てのメールを読んでいる）メグさん、パートナーさんこんにちは。こんにちは。毎日、仕事帰りにラジコでメグさんの番組聞いています。ありがとう～。気が強い人ばかりの職場で毎日へこへこ働いているので、ヘコヘコ（笑）、帰りの電車の中で聴くメグさんの軽快なトークにいつも癒されています」

◯未希の会社

 オフィスビルの外観。ラジオが続いている。

メグライオンの声「今日は、勇気を出して初めてメールを送らせて頂きました。というのも私、今凄く悩んでいてメグさんだったらこんな時どうするんだろうって思ったのです」

◯同・屋上

吉木未希（２９歳）は一人お弁当を食べながら楽しそうにラジオを聴いている。

メグライオンの声「私、仕事中にお菓子が辞められないんです。ふふっ。元々そんなにお菓子を食べるタイプの人間ではなかったのですが、昨年異動した新しい部署の女性社員がとにかくお菓子食べるんです。しかも私の両隣の女子、二人とも！それも小分けされたお菓子じゃなくて、ポテトチップスとか袋ごとバリボリ食べるんです。信じられますか？匂いとか、音とかやばいです。何がやばいって私の食指を動かしてくることが、です（笑）。」

 未希、つられて笑う。

メグライオンの声「結局今では、私も一緒になってバリボリ食べちゃうんです。なんだか最終的に両隣より食べてる気がします。体重も増えちゃってもう、服が苦しいのです。でも、毎日コンビニでお菓子を探すのが日課になっちゃって、そうすると毎日新作の商品とかでちゃってて、結局買っちゃうんです。今ではお菓子博士なんて言われて、お菓子のことならあの子に聞け、なんて言われちゃって。皆買う前に私に画像付きのラインで聞いてくるんです。これどお？なんて。メグさん、こんな私どう思いますか？どうしたらお菓子辞められますか？因みにメグさんのおすすめのお菓子は何ですか？って。ははは、結局お菓子食べたいのね。ラジオネーム、ガルボはプレミアム深み派さんからのお悩み相談でした～ありがとう。ってゆうかこれ相談？」

＊＊＊

５ページの回想シーンの書き方サンプル

ポイント：報告書を全否定されたことを入れるなら、それを見せないといけません。また「死にたい気持ち」「やさぐれていた」は内面のことです。これを目に見える形に変換しないとですね。

未希「でしょう。お菓子、喉通るんだって思った」

 と、窓を見て、その日のことを思い出す。

◯未希の会社・会議室

 上司に怒鳴られている未希と駒井。

 上司、報告書らしきものを二人の目の前でやぶく。

◯同・屋上

 涙を拭う未希。

 傍らにあるお弁当には殆ど手を付けていない。

◯同・オフィス

 未希、自分の席に戻ってきて、ため息をつく。

 ふと、駒井が気になり、窓際を見る。

駒井、ガサゴソを引き出しを探り、お菓子を取り出しそっと食べ始める。

◯中華屋（回想明け）

 未希、担々麺を持った箸が止まっている。

未希「あれは衝撃だった。なんというか、土台が違う気がしたの」